

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	中央大学教授講演
代表者名	徳賀芳弘
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業では中央大学から久保田敬一教授を招聘し、日本の同族企業に関する最新の研究について講演を行っていただいた。講演のタイトルは“Accrual-Based and Real Activities Based Earnings Management Behavior of Family Firms in Japan”および“Family Firms, Accounting Conservatism, and Information Asymmetry: Evidence from Japan”(with Hitoshi Takehara)である。また、セミナーでは同族企業の資本構成をテーマに修士論文を執筆した亀井博史氏(京都大学経済学研究科)が「同族企業の資本構成に関する一考察」と題する報告を行った。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>1. 本事業では日本の同族企業に関する研究の第一人者である久保田敬一教授より、最新の研究成果(会計的・実態的裁量行動や会計上の保守主義に関係する研究成果)について講演を行っていただいた。久保田教授の講演の中では、同族企業判定を行うためにより詳細なデータを活用することで、より精緻な同族企業の特定に成功している点が強調された。この点について参加者から、従来のデータにもとづく同族企業の判定方法と久保田教授らが採用したデータにもとづく同族企業の判定方法とでは実際に判定結果に違いが生じるか否かについて質問が行われ、久保田教授より判定結果に大きな違いが生じる点が指摘された。その他にも報告内容に関する様々な質疑が行われ、近年注目されている同族企業に関する実証研究について参加者全員がより深い理解をえることができた。</p> <p>2. また、本事業では久保田教授の研究報告に加えて、京都大学経済学研究科修士課程の亀井博史氏の報告が行われ、日本における同族企業の資本構成の選択に関する報告が行われた。亀井氏の報告に対しては、久保田教授より研究を改善するためのいくつかの有益な助言を行っていただいた。例えば、①研究で引用されていなかった同族企業の研究に関する重要な先行研究を紹介していただくとともに、②同族企業の判定方法に関する問題点について指摘をいただいた。また、③報告をより分かりやすいものとするための助言もしていただき、これらの助言や指摘のいくつかは亀井氏の研究や報告を改善するために役立てられている。</p>